

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	環境厚生常任委員会	会議場所 第1委員会室	
		担当職員 池永	
日 時	平成28年12月22日(木曜日)	開 議	午前 10 時 00 分
		閉 議	午前 10 時 25 分
出席委員	◎馬場 ○平本 酒井 富谷 小川 奥村 福井		
理事者 出席者			
事務局	池永		
傍聴者	市民 一名	報道関係者 一名	議員一名

会 議 の 概 要

1 委員長報告の確認

[馬場委員長 委員長報告朗読]

<馬場委員長>

以上の委員長報告でよいか。

<了>

2 議会だより原稿について

[馬場委員長 議会だより原稿（病院事業部分）朗読]

<馬場委員長>

病院事業について、この内容で良いか。

<了>

[馬場委員長 議会だより原稿（敬老事業部分）朗読]

<福井委員>

「委員の主な意見」の2つめの意見は少し違うのではないか。90カ所の居場所をもっと生かせるようにということであり、緩和措置の10万円も欠席者への500円も目的がよく分からないから要らないという議論だったのではないか。少し変更した方がよいのではないか。

<酒井委員>

委員会のこれまでの指摘要望の内容が書かれている。平成25年頃はこのように「継続して実施できる手法を」という言い方だったが、平成27年度の決算事務事業評価では、環境厚生分科会として全面的に見直すように言っている。こういう書き方をすると、「委員会は敬老事業を続けるように言ってきたのに見直しがされた」と理解されてしまう。委員会としても敬老事業がこのままではいけないという考え方であったことを書くべきである。

<福井委員>

「継続して実施できる」という部分が要らないのではないか。

<馬場委員長>

「高齢化が加速する中、手法を検討・研究するよう委員会は指摘要望してきました」ではどうか。

<奥村委員>

「廃止を含め」としてはどうか。

<酒井委員>

全面見直しと言っていたのではないか。これはいつの指摘要望を参考にしたものか。

<事務局主任>

平成25年度の指摘要望を参考にしたものである。意見を踏まえると、「地域全体のつながりを築く役割を担っており」の部分も不要ではないか。

<酒井委員>

不要である。その役割を担っているかどうかも分からないという話になっている。

<事務局主任>

その部分を除くと、「敬老事業は高齢化が加速する中、手法を検討・研究するよう委員会は指摘要望してきました」となる。

<福井委員>

手法ではだめである。「高齢化が加速する中、全面的に検討・研究するように」で良いのでは。

<馬場委員長>

「敬老事業は、高齢化が加速する中、全面的に検討・研究するよう委員会は指摘要望してきました」でどうか。

<酒井委員>

「高齢者福祉がますます重要性を増す中」としてはどうか。重要性が増す中で敬老事業を全面見直し、高齢者の福祉の向上を考えてきた委員会だと思うので、それを表現できればと思う。全面見直しについて意見を出してきたことを入れたら趣旨が通るのではないか。

「委員の主な意見」の2つめの意見も、敬老会を続けることが目的と理解されるのではないか。身近なところに行けるような事業が大切であり、それを反映されたい。

<馬場委員長>

「敬老事業は、高齢化が加速する中、全面的に検討・研究するよう委員会は指摘要望し、高齢者福祉のあるべき姿を求めてきました。」では少し違うかもしれない。事務局から何かあるか。

<事務局主任>

先ほどの酒井委員の意見では、「敬老事業は、高齢者福祉が重要性を増す中、全面的に検討・研究するよう委員会は指摘要望してきました」となる。

<馬場委員長>

それで良いか。

<了>

<事務局主任>

「委員の主な意見」の2つめの趣旨は、敬老会ではなく、もう少し身近なところでの事業を充実すべきという意味でよいのか。

<酒井委員>

身近な居場所づくりが重要である。

<馬場委員長>

「身近な居場所づくりが重要なのではないか」でどうか。

<福井委員>

少し違う。90カ所の居場所づくりは良いことであるが、「敬老会のあり方は」という見出しである。

<事務局主任>

「居場所づくり事業が検討されている。そのように、身近な居場所づくりの事業を充実させて、高齢者の外出促進や福祉につなげる方がよいのではないか」ではどうか。

<馬場委員長>

「居場所」が繰り返しになるので、「高齢者の居場所づくり事業が検討されている。そのように高齢者の事業を充実させるほうがよいのではないか」としては。

<奥村委員>

「検討されている。その事業を、敬老事業との関わりを持って」もしくは「敬老事業と合わせて実施していく方がよい」としては。

<福井委員>

敬老事業も残っていく分、一緒に見よということである。そうでないと敬老事業を継続する意味がないということである。

<酒井委員>

「一般介護予防事業として検討されている、市内90カ所の居場所づくり事業などに重点を置いて取り組んではどうか。」としてはどうか。また、前段を変更したことによって1つめの○も内容とあわなくなっている。委員から出た意見としては、額を半額にすればよいのではなく全面的に見直すように言ったではないかということであり、それを掲載することで、2番目の○に繋がるのではないか。

<福井委員>

それは前段の「敬老事業のあり方は」の部分で指摘してある。

<馬場委員長>

前段で掲載するのでよいのでは。「見直しの考え方」は当局の考え方であり、我々はそれについて議論したということである。

<酒井委員>

1つめの○と2つ目の○を先ほど言ったようにすると、敬老事業と90カ所が繋がって、理解してもらえるとということか。

<馬場委員長>

そのように考える。それでよいか。

<事務局主任>

再度整文する。

<奥村委員>

市民から見たら、これが決定のように受け取れる。これは考え方であって、このまま出すのは嫌な感じもする。

<馬場委員長>

そこは文章で読み取ってもらえないのではないか。では、後は正副委員長に一任いただきたい。

<了>

散会 ～10:25